

第3回北海道科学技術審議会開催結果

1 開催日時 平成29年11月7日(火) 15:00~16:40

2 開催場所 かでる2・7 10階1040会議室

3 議 題

- (1) 平成29年度北海道科学技術賞及び奨励賞候補者の選考について
- (2) 次期北海道科学技術振興計画(原案)について
- (3) その他

4 委員からの主な意見(次期計画に関するもの)

(1) 重点化プロジェクト以外(基本的な考え方、基本目標、主な研究開発分野等)

- ・ 今、時代の転換点にいること、その切迫感、喫緊の課題、特に人口減少、高齢社会、格差の拡大といったものは、もっと感じられても良いのではないか。
- ・ 第2章の現計画の主な取組と今後の課題の記載では、できたこと、できなかったこと、その原因・要因、今後何をすることが見えない。「このまま、みんなやっていく」ということでは、何も結局変わっていないのではないか。
→ もう一度、何が悪かったかという部分を含め、少し検討したい。人口減少や高齢化といったことについては、表現的な工夫の余地はあるとしても、意識としては書いている。

(2) 重点化プロジェクト

<参考指標>

- ・ 目標値を作らないのであれば、プロジェクトがうまくいったかどうかということは評価できないし、マネジメントができない。目標値は是非つくるべき。
→ 施策も研究開発も、道だけでなく、様々な関係機関に及ぶ中で、目標値を指標化することは困難。第6章の道が関係機関と取り組む、基本的な施策のほうでは、目標値を設定するが、重点化プロジェクトでは、例え、目標値を設定しても、道の予算だけでは達成できず、道としては責任を負えない部分がある。
- ・ 重点化プロジェクトは、様々な機関が同じベクトル、方向性の道標であり、北海道全体の指針なので目標値を設定することはできない。公設試などの場合と違う。
- ・ K P Iは、自らが努力すれば達成できるものを設定するのであって、自らコントロールできないものを設定するのは趣旨としてそぐわない。参考指標みたいな書き方をするのであれば良いし、道がコントロールできる第6章に目標値を記載するのであれば、それで良いのではないか。
- ・ 第6章に目標値を設定するのであれば、逆に、第5章の重点化プロジェクトには参考指標がない方がすっきりする。
- ・ 最終目標の数値化は無理。できる筈がない。だから、6章で道が主体となって指標を上げるとしている。

<ロードマップ・将来の絵>

- ・ 重点的にここに注力するという書き方をすると、北海道は、どこに重点を置くのかということがわかりやすい。
- ・ 5年間のロードマップとして、最初にこういったものを重点化して始めていって、次にどう改善していくかというのは非常にわかりやすいが、重点化プロジェクトにはロードマップが無い。
 - 今、重点化プロジェクトに並べている中身は、実はある程度もう予算的に、国のプロジェクトに乗っかっているものもあるし、ただ方向性だけが決まっているものとか、色々あって、なかなか一様のロードマップというのを掲げることが難しいというのが正直なところ。
 - 前回からロードマップということを言われていることも承知はしているが、その同じ考え方で全体を通すことができなくて、ロードマップをお示しすることができていない。
- ・ 夢として書けるもの、目に見えて書けるものが一例あるだけでも良い。こういったものが書いてあるだけでも、ロードマップ代わりになる。
- ・ 部会では、将来の絵を描きましょうという議論があった。重点化プロジェクトの3つの分野をAI・IoTが横串で刺す時、AI・IoTを使った未来の絵が描ける、そういったことを入れようという議論があった。ロードマップがなんだこうだって話はあるが、そういった絵が1枚あれば、重点化プロジェクトが最終的にどこへ持っていくのかという形が見えてくる。
- ・ 道民が見た時に、こんなに北海道が良くなるのならうれしいなって解るような絵姿が描けるとすばらしいということがあって、さっきのロードマップ、絵姿といった議論があったわけである。
- ・ 重点化プロジェクトは、色々なものが全部入っており、非常に良くできているので、あとはその見せ方だけかなという印象。絵姿というのは、未来投資戦略2017の最初の方に絵があったと思いますので、ああいうので良いかなと思う。

<AI・IoT利活用>

- ・ 他3つの分野の中に、どう関連するのか書き込むべき。例えば、人口減少、高齢化の中で、労働生産性の向上に向けて、こういうことであれば、人が減っていても、効率化ができ、北海道の売りになるなど、もう少し具体化すべき。
- ・ 全ての分野に、「この分野におけるIoTの活用」などといった項目を立ててしまえばいい。埋め込んでいると解りにくい

<人材育成>

- ・ 全ての世代、全ての分野の人に対して、AI/IoT時代に何が必要かという、人材育成、教育が必要。AI/IoTの利活用を、人材育成・教育まで踏み込むと、それが結局、北海道で特に広がっている経済格差、教育格差の解消に繋がっていく、それが労働生産性も上げていくということになる。

第4回北海道科学技術審議会部会開催結果

1 開催日時 平成29年10月24日(木) 15:00~17:00

2 開催場所 かでの2・7 9階 920会議室

3 議題

- (1) 次期科学技術振興計画の原案について
- (2) その他

4 委員からの主な意見

<全体の構成と重点化プロジェクト>

- ・ 第3章で「情勢の変化」などを記載した後、重点化プロジェクトで、また、背景や北海道の課題が出てくるなど、流れが良くない。
- ・ 例えば、重点化プロジェクトの基盤的な力と基本的な施策は、どのようにリンクするのか。関連する項目についてうまくリンクできるよう表現の仕方を工夫すべき。
- ・ 重点化プロジェクトの項目は、当初、予定していたものと少し違う情勢の変化が出てきたから、新しい課題として捉えて、特に何かやりますという宣言であり、わかりやすいと思う。
- ・ 重点化プロジェクトは、そこを深化させて記述するという観点で、背景・課題を特出で記述するは悪くはない。タイトルの付け方が、「北海道の強み」などという書き方が良くない。全体からつまみ出して、再度説明する趣旨が分かれば良い。
- ・ 重点化プロジェクトは、全体として良くまとまっている。当初、戦略Ⅰ、Ⅱなどの項目があり、ⅠとⅡの違いがよく分からないなどであったが、その辺も整理されすっきりした。
- ・ 30年、50年先を見つめて、将来像を踏まえて全体を俯瞰する絵があると良い。

<指標などについて>

- ・ 指標について、企業の売り上げ、産業の売り上げといった企業活動に関するものを加えることはできないか。
- ・ 北海道は、こういう部分で強みがあるという根拠として、数値で出せる部分を検討しては。研究者の数、論文数なども参考となると思う。
- ・ AI・IoTの参考指標で、共同研究数と総労働時間数としているのは違和感がある。

<知的財産と知的財産権の使い分け>

- ・ 「知的財産」と「知的財産権」の使い分けが整理されていない。ITを使った情報財は知的財産だけれど、保護するときは知的財産権。こういう観点で整理すべき。

<その他>

- ・ 概要版と本編の項目が相違していたりするので、再度、確認作業をしっかりとってほしい。